

令和7年8月1日号
533号



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



【学習内容】

回	期 日	内 容	講師（敬称略）
1	9/5（金） 午前10時～正午	〈開講式〉 人権教育推進講座「音楽を通して平和に思いを寄せるⅡ」宮沢賢治作品を通して人権を考える。	高崎市人権教育講師 磯部 裕子
2	9/12（金） 午前10時～正午	創作落語「三途の川の渡り方」 病や老い、死など、タブー視されがちなテーマを落語という「笑い」を通して考える。	内村 英徳 （芸名：介護亭楽珍）
3	9/26（金） 午前10時～正午	こんなに便利な整理収納術 快適な暮らしを目指して、整理収納術を学ぶ。	高崎市社会教育講師 山口 智子
4	10/10（金） 午前10時～正午	いきいき健康体操 日常生活を快適に過ごすため体力の維持・増進を図ります。	高崎市社会教育講師 吉田 大祐
5	10/17（金） 午前10時～正午	キャッシュレス決済って何？ 今や当たり前前にみられるキャッシュレス決済。その現状と課題についてわかりやすく学ぶ。	高崎市情報政策課 三雲課長補佐
6	10/31（金） 午前10時～正午	皇女和宮降嫁と中山道 行列の長さはなんと 50 km！世界一長い花嫁行列と中山道について考える。	高崎市社会教育講師・ 高崎学博士 長井 和俊
7	11/21（金） 午前10時～正午	「八幡の荘・新田の荘」歴史面白話と徳川幕府	高崎市社会教育講師・ 高崎学博士 高井 郁朗
8	11/28（金） 午前7時30分～ 午後4時（予定）	館外研修：徳川発祥の地、世良田東照宮を訪ねる。併せて AGF 工場見学。	電車利用（太田市世良田を訪ねる）
9	12/5（金） 午前10時～正午	「鼻高展望花の丘」よもやま話 今や県内でも有数の観光スポットになった展望花の丘、これまでの取り組みを振り返る。	NPO法人「鼻高町をきれいにする会」前理事長 戸塚 実
10	12/12（金） 午前10時～正午	音楽鑑賞：優雅な琴の音色を楽しむ♪ 〈閉講式〉	演奏者 田中三世子 関根みどり

《参加者募集》

盛りだくさんの内容で構成された学習講座です。全10回参加していただくことが望ましいのですが、可能な範囲で参加してください。

《鼻高地区》活き活き セミナー 開講

毎日の生活を、活き活きと心豊かに過ごすために 地域で生涯学習



8月の休館日

8月11日（月）山の日
8月13日（水）～15日（金）

夏季臨時休館



【期日】9月5日～12日、全10回、毎週金曜日、
【時間】午前10時～正午
※館外研修の詳細は別途連絡。
【場所】鼻高公民館・2階講義室、その他
【対象】一般（鼻高地区住民優先）、30人程度
【費用】無料（但し館外研修参加者は交通費、拝観料が必要）
【用意する物】筆記用具、10月10日は運動のできる服装。
【申込み】8月1日（金）午前9時から鼻高公民館で受け付けます。
☎ 322・9100

裏面もごらんください。



鼻高の四季

II 写真で綴る鼻高の宝 ③7

八幡の庄 八幡宮に纏わるトリビア

我々の地域の歴史を語るに源義重はキーワードになっています。八幡の庄や八幡宮に纏わる事柄を続けます。

源義重の子孫

義重には子どもとして義俊・義範・義兼・義季・経義がいましたが、領地の地名を苗字としたので、義俊は八幡の庄の里見郷に居したので里見を苗字とし、義範は多胡の庄山名郷を所領としたので山名氏と称しました。この山名氏はその後西国に移り南北朝時代には有力な守護家となっています。その子孫である山名宗全が

応仁の乱で西軍の総大将として東軍の細川勝元と戦いになり、戦国時代に突入するのです。義兼は新田の庄を譲られ、新田氏と称して義重の後継者となり、新田義貞に繋がります。義季・経義は新田の庄の中にそれぞれ所領を譲られ得川氏・瀬戸氏と称しています。重要なのはこの義季の子が頼有（徳川）と頼氏（世良田）であって後の江戸幕府を開

く徳川家康に繋がっているということ（諸説あり）。

功を挙げた義経軍の中心軍勢だったとのこと。

八幡八幡宮・若宮八幡宮に纏わるトリビア1

また、里見と名乗った義俊は千葉の館山藩に繋がり、江戸時代滝沢馬琴の南総里見八犬伝のモデルです。山名義範は源平の戦い「一の谷合戦」で、鹿しか通れないような獣道を馬で駆け降り、平家に奇襲をかけたという「ひよどり越えの戦」で武

八幡宮が鎮座する地域に奥州に至る奥大道「東山道」が通っていたので歴史上こんなことが起こっていました。時は平安時代初期の永承6（1051）年に朝廷よ

り奥州平定の命を受けた源頼義・八幡太郎義家父子の軍勢が奥州の安部一族討伐のための戦「前9年の役1052年」の際に奥州に赴く途中、豊岡の若宮八幡宮や八幡八幡宮に逗留し陣立や戦勝祈願を行ったとのこと。

豊岡の地名について「上野国旧聞伝説録」にこんな記録があるそうです。豊岡の若宮八幡宮では義家の元服の儀式を行ったのですが、この時が6月18日夏の土用の時にもかかわらず雪が降ったので土用寒（どうかん）・十八日（とうようか）

といい、これが転じて豊岡になったと云われています。しかし、少し前の長元3年（1030）の「上野国交替實録帳」に碓氷郡・片岡郡・多胡郡と共に豊岡郡という記述があるので、豊岡という地名はそれ以前から使われていたのではないかと主張する研究家もいます。

（次号に続く）

源氏系統図（諸説や途中略あり）

